

うとげかま 宇トゲ窯跡

所在地 瀬戸市上品野町地内
調査理由 東海環状自動車道
調査期間 平成 13 年 8 月～9 月
調査面積 400 m²
担当者 服部信博・藤岡幹根・川添和暁

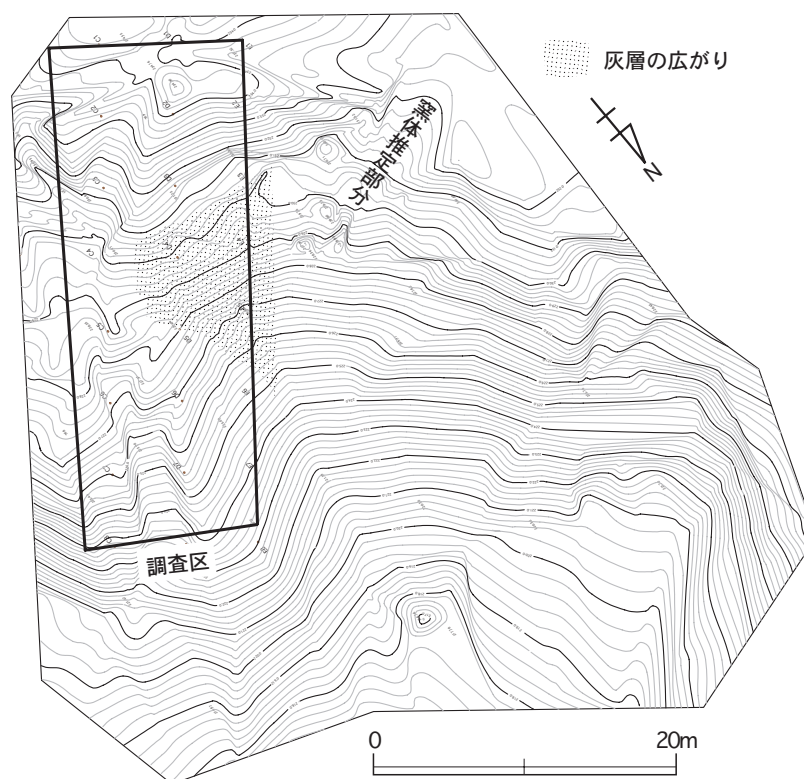


調査地点 (1/2.5 万「多治見・猿投山」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は東海環状自動車道建設の事前調査として日本道路公団中部支社岐阜工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。調査面積は 400 m² で平成 13 年 8 月から 9 月にかけて実施した。

立地と環境 宇トゲ窯跡は、瀬戸市東部、上品野町の品野盆地を囲む丘陵内に位置する古窯である。水野川の支流である大戸下川の右岸、丘陵の南西斜面に立地しており、標高は 230m である。周囲には、中洞窯跡・上品野窯跡・稲荷北神社北窯跡・桑下窯跡・上品野丸山窯跡など中世古窯が多数知られている。

調査の概要 今回検出された遺構は作業施設 1 基 (SK01) と灰原である。SK01 は長軸 300 cm・短軸 220 cm・深さ 60 cm を測り、風化花崗岩を斜面部で竪穴状に掘り込んだ遺構である。埋土の堆積状況から最低 3 回の使用が認められ、最上面では釉の見られない半完成品が多く出土した。灰原は SK01 から斜面下より、12m×8m の範囲の広がり確認でき、最深部では約 50cm ほどの堆積が認められた。灰層の堆積は壇状に堆積している状況が確認できた。



第 1 図 調査区位置図

一方、一部窯体推定部分からして地形的に不自然な位置にも堆積がみられる。灰層の流れの方向は、今回の調査では東側から西側への一方向しか確認できなかった。

古瀬戸後期の、碗・折縁深皿・皿・鉢・天目茶碗・柄付片口・香炉・合子・四耳壺・瓶子・花瓶・水注・片口鉢・播鉢などが出土した。

今回の調査は遺跡範囲の東端のみであった。灰層の形成に関して、現状からでは自然の掻き出しによる堆積とは認められない部分が存在する。この点に関して、二つの仮説を提示できる。(1) 現在は存在しない窯がかつて東側に存在していて、その灰層はこの窯から由来したとするもの、(2) 宇トゲ窯の窯内からの掻き出し物により人為的に整地をし、作業スペースとして空間を確保したとするもの、である。今後出土遺物の細密な検討などから灰層の形成を分析することによって、解明していきたい。(藤岡幹根・川添和暁)

